



課題フォルダー ー〇月〜二月



小6までの課題フォルダには、暗唱検定用の暗唱長文の3ページのうち1ページだけを末尾に載せています。その先の暗唱長文は、ウェブで
ごらんください。

<https://www.mori7.com/mine/as2.php>

教材の説明

▼作文ノート

2023年7月より、作文用紙と封筒用紙は、お送りしなくなりました。

作文については、市販の作文ノート120字詰、150字詰、200字詰などを各自でご用意ください。

作文は、写真で画像を撮り、作文の丘から送ることができます。

作文を郵送される方は、封筒を各自でご用意ください。

▼再発行料金

課題フォルダやシールの再発行を希望される場合の料金は、次のとおりです。

課題フォルダ：550円 住所シール：165円

課題フォルダはホームページでもごらんになれます。項目や住所の記載は、手書きでもかまいません。

各種用紙類は、学習の手引にPDFファイルとして載せていますので、それを印刷して使っていただいても結構です。

<https://www.mori7.com/mori/gate.php>

課題フォルダは、ウェブページから印刷することもできます。

<https://www.mori7.com/mine/kd.php>

▼欠席や電話先変更をする場合は

欠席や電話先変更をする場合は、ホームページからご連絡ください。担当の先生のメールに直接連絡が行きます。

しかし、この連絡メールには返信はありませんので、時間の変更依頼などの連絡は行わないようにしてください。

<https://www.mori7.com/outi/d/>

ユーザー名、パスワード、生徒コード（生徒コードはユーザー名と同じ。いずれも半角英数字）を入れて、「先生への欠席等連絡」というリンク先をクリックします。

オンラインクラス一覧表のご自分のコードの横にある（三角印）から欠席連絡をすることもできます。

欠席や電話先変更の連絡はお電話でも受け付けています。電話045-353-9061（平日10:00～17:00 土日10:00～12:00）

課題集 ルピナスの山

長文集 ◆横書き長文全文 ▲縦書き長文全文

★印がその週の主な課題です。(感)は感想文の課題です。

「絵 池 渚 波」はインターネットのリンク先です。ヒントなどにリンクしています。<<http://www.mori7.com/mine/iwa.php>>

◆▲をクリックすると長文だけを表示します。◆横書きルビ付き ▲縦書きルビなし ▲縦書きルビ付き

週	課題	週	課題
10.1週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ◎石 ★季節感のある暮らし、スポーツの勝ち負け 水 ◆ ▲ ▲	11.3週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○草 ★昔話の研究を(感) ◆ ▲ ▲
10.2週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○風 ★学校について友人と(感) ◆ ▲ ▲	11.4週 絵 池 渚 波	◎自由な題名 ★清書(せいしょ) ○そのとき、はじめて ◆ ▲ ▲
10.3週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○土 ★物ごろころのついた(感) ◆ ▲ ▲	12.1週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○水、流行と自分 ★日本のふつうの書きことば(感) ◆ ▲ ▲
10.4週 絵 池 渚 波	◎自由な題名 ★清書(せいしょ) ○自分が、いままさに ◆ ▲ ▲	12.2週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○太陽 ★最近わが国では、あらゆる所で(感) ◆ ▲ ▲
11.1週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○坂、自信と自慢 ★時計を選ぶときには(感) ◆ ▲ ▲	12.3週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○根 ★考えてみると、私の家では(感) ◆ ▲ ▲
11.2週 絵 池 渚 波	○自由な題名 ○窓 ★もう三〇年も前の(感) ◆ ▲ ▲	12.4週 絵 池 渚 波	◎自由な題名 ★清書(せいしょ) ○われわれ普通の凡俗にとっては ◆ ▲ ▲

項目表 ルピナスの苗

目標：家徽的な題名を生題化する書き方を身につける

★重要・評価あり ◎重要・評価なし ○普通・評価なし 段落は大体の目安です。

第1段落	項目	キーワード	説明
構成	○ 題名の工夫	題名の工夫 <<構成>>	「○○な○○」「○○の○○」のように工夫
構成	○ 四段落構成		大きく四つぐらいの部分に分けて書く
構成	○ 書き出しの工夫	書き出しの工夫 <<構成>>	会話・色・音・情景で書き出す
主題 【🌱】	★ 生き方の主題	生き 人間 生き方 <<主題>>	私は…生きたい

↓

第2段落	項目	キーワード	説明
構成 【🌱】	★ 複数の方法一	方法 <<構成>>	…の方法としては第一に
題材	◎ 体験実例	体験 私 わたし 僕 ぼく <<題材>>	自分らしい体験実例を書く
表現	◎ たとえ	まるで みたい よう <<表現>>	まるで…のよう
主題	○ 途中の感想		途中で主題に関連した感想を書く

↓

第3段落	項目	キーワード	説明
構成 【🌱】	★ 複数の方法二	方法 <<構成>>	…の方法としては第二に
題材 【🌱】	★ 伝記実例・長文実例	伝記 長文 <<題材>>	伝記の実例・長文集の実例
表現	◎ ユーモア表現	笑 爆 ユーモア <<表現>>	ユーモアのある表現（笑）
表現 【🌱】	★ 詩の引用	詩 歌 <<表現>>	詩や俳句から引用する

↓

第4段落	項目	キーワード	説明
主題 【🌱】	★ 反対意見への理解	確かに <<主題>>	確かにBもよいが、しかしAが
表現 【🌱】	★ 名言の引用	名言 言葉 ことば <<表現>>	主題に合わせて名言を引用する
主題 【🌱】	★ 生き方の主題	生き 人間 生き方 <<主題>>	私は…生きたい
構成	○ 書き出しの結び	書き出しの結び <<構成>>	書き出しのキーワードを使って結ぶ

字数	★ 1 0 0 0 字以上	
表記	○ 決めてくる、読みかえす	書くことを決めてくる、書いたあと読み返す
表記	★ 9 0 分以内	書き始めから書き終わりまで9 0 分で
表記	○ 構成メモ	作文を書く前に構成メモを書く
表記	○ 漢字を使う、ていねいに書く	習った漢字を使っていねいに書く
表記	○ 段落三文	段落の目安は三文ぐらい
表記	○ 一文一点	読点は1文に1～2点を目安に
表記	○ 常体で書く	した・だった・であるなどで書く練習
表記	○ 誤字一ヶ所以内	一つの作品に誤字は一つまで

長文 10.1週 ru

1 地球は、水の惑星^{わくせい}と言われるように、表面の七十パーセントが水でおおわれている。「湯水のように」というたとえが使えるのは水の豊富な日本だけのようだが、誰でも日常的に接しているこの水が、実はきわめて不思議な性質を持っている。

2 〇度で固体になり、百度で気体になる水は、地球の大きな循環を支えている。この支える力の秘密は、水が自在に形を変えするというその性質にある。環境に合わせて形を変えることが、世界を潤す力になっているのである。

3 人間もたぶん、この水のように周囲に合わせて自在に形を変えることで、周囲を潤す力を持つことができる。

例えば、デイベート^{たいべーと}ということを考えてみよう。欧米では、意見を闘^{たたか}わせることによって相互の意見が進歩すると考えられている。4 弁証法では、ある意見Aとある意見Bが対立することによって新しい意見Cが生まれると考える。

日本人は、これとは反対に対立を避ける。あたかも水のように、相手がAと言え、Aもわかる」と答え、相手がBと言え、Bも理解できる」と答える。5 AもBも、仏教もキリスト教も、欧米では本来両立しないと考えられたであろうあらゆるものをのみこんで、深い湖のように豊かになっていったのが日本文化である。

6 日本語のもともとの出発点にも、日本文化の水のような性質が発揮されている。日本は巨大な中国文化圏^{けん}の辺境に位置していたために、中国からの影響^{えいきやう}を絶えず受けていた。7 しかし、同じ立場にある他の多くの民族が、自らも漢字を採用するか、あるいは漢字という言葉^{ことば}を拒否して独自の言語に留まるかどうかの選択しか持たなかった中で、日本だけは長い年月をかけて、平仮名、片仮名、音訓読み、漢字かな交じり文という独自の創造的な受け入れ方を生み出した。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

8 この水のような性質こそ、これからの世界に最も求められているものではないだろうか。

自己主張^{じこしゅてん}ということは確かに大切だ。特に日本人は、相手に合わせすぎるといふ批判もある。9 しかし、狭い地球の中で、岩や石のようにぶつかり合う個性だけが充滿しても、地球は息苦しくなるだけだろう。

水のように自在に形を変える柔軟さが世界を潤すとしたら、日本人や日本文化の水のような性質も、改めて見直す必要があるのではないだろうか。0

(言葉の森長文作成委員会 M)

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 ルピナス 10.1週

★季節感のある暮らし、スポーツの勝ち負け

今週は題名だけの課題です。

解説 10.1週

現在の社会は、暑ければクーラー寒ければ暖房というように、季節感のない生活ができるようになっていきます。食べ物でも季節とは関係なく年中栽培されるようになっていきます。

季節感のある暮らしをするためにはどうしたらよいかということで、複数の方法を考えてみましょう。

解説のつづき 10.1週

第一段落は身近な実例を書き出しの工夫を入れながら書く。「『チリリン、チリーン』風鈴の音が静かに響く。秋風にゆれる風鈴を見ると、去ってゆく夏がしのばれる。私の家はエアコンがないので、季節感のある暮らしをせざるを得ない。（笑）」実例に続けて意見。「私は、このような季節感のある生き方をしたい。」（季節感のある暮らしという具体的なものでもいいですし、季節感のある人生という抽象的な意見として書いてもいいです）

第二段落は、その方法。「そのための第一の方法としては、変化を楽しむ気持ちを持つことだ。」その裏づけとなる実例。「私は、ふだん出かけるときでも、行きと帰りの道はできるだけ別になるようにしている。」など、自分の体験実例を中心に。

第三段落は、方法（２）。「第二の方法としては、学校や社会で、もっと季節ごとの行事を大事にするような文化を作っていくことだ。または、「もっと野山に出て自然と接する機会を増やしていくべきだ。」など。伝記実例は、よく使えるのがエジソンと織田信長です。例えば、「織田信長は、子供のころから野山を駆け回って、あたりの地理や自然を熟知していた。そのために、桶狭間の戦いでも、最高の場所と時刻を選べたのではないか。」など。伝記実例がない場合は、長文実例、又は普通の社会実例で。それもなし場合は体験実例でもいいです。

第四段落は、反対理解を入れながら書き出しの意見で結びます。「確かに、科学の発達は、人間に快適な環境をもたらした。病人やお年寄りが寒さに震えたり暑さに弱ったりする社会は決してよい社会とは言えない。しかし、私たちはもっと季節感のある人生を送っていくべきではないだろうか。」余裕があれば、このあと、書き出しの結びで。「『チリリン、リリーン。窓辺の風鈴は今日も静かに鳴っている。』」など。

解説のつづき 10.1週

構成図は、小3以上の生徒が書きます。小2以下の生徒は、絵をかくてから作文を始めるという課題になっているので、構成図は書かなくて結構です。

構成図を書くときに大事なことは、思いついたことを自由にどんどん書くことです。テーマからはずれていても、あまり重要でないことでも一向にかまいません。

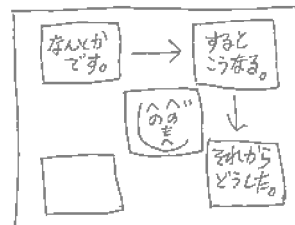
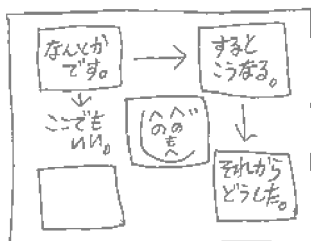
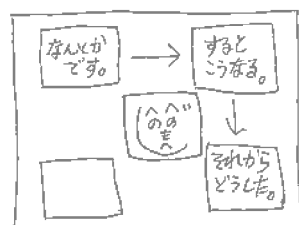
たくさん書くことによって、考えが深まっていきます。したがって、構成図は、できるだけ枠（わく）を全部うめるようにしてください。しかし、全部埋まらなくてもかまいません。

枠と枠の間は→などで結びます。この矢印は、書いた順序があとからわかるようにするためです。作文に書く順序ということではありません。

構成図は、原稿用紙や普通の白紙に書いて結構です。

構成図を書きます。 	頭の中にあるものをそのまま書くとき。 	構成図で書くとき。
初めに絵をかきます。（絵はどこにかいてもいいです） 	思いついた短文を書きます。（どこから始めてもいいです） 	思いついたことを矢印でつなげていきます。

大体うまったらできあがり。



昔の夏 ハエ ウチワ アチー 風鈴 蚊取り線香 快適ではなかったが	ウマイッ! 季節感があった	今の夏は ちょっと さむいなあ 快適だが	去年の 冷凍でしょ おサマ もう秋か 季節がよくわからん
昔の人は 地球とともに生きている実感があった きみさる 春だ もうすぐ	現代人は実感がない 今ののかなあ 希望 温度 設定 フタ サイ		

長文 10.2週 ru

1 学校について友人と話したとき、彼がもしろい問いをぶつけてきた。幼稚園じやお歌とお遊戯ばかりだったのに、どうして学校に上がるとお歌とお遊戯が授業から外されるんだらうというのだ。

2 小学校に入ると音楽の時間に楽譜の読みかた、笛の吹きかた、合唱のしかたは習った。体育の特別授業として一学期に一、二回、フォークダンスの練習もした。が、どちらの時間も生徒だった頃のわたしはてれにてれた、あるいはふてくされた。3 なにか恥ずかしかったからである、おもしろくなかったからである。ひとといっしょに歌うのは楽しいはずである。踊るのも楽しいはずである。ついこのあいだも見物してきたのだが、知人がやっている阿波踊りの連の練習会を見ているだけでもそれは分かる。4 みんな同じように踊りながら、みんなどこことなく違う。勝手に踊っている。音楽や体育の時間は、音と動作をきっちり揃えることが要求される。それがつまらない理由だ。5 もともとみんな同じような動作をすることは楽しいのだが、同じ動作をするのはいやなのだ。ファッションだってそう。みんなよく似た服装をしているが（していないと不安だが）、同じ服装は絶対にいやなのだ。

6 幼稚園では、いっしょに歌い、いっしょにお遊戯をするだけでなく、いっしょにおやつやお弁当も食べる。他人の身体に起こっていることを生き生きと感じる練習だ。そういう作業がなぜ学校では軽視されるのか、不思議な感じがする。ここで他者への想像力は、幸福の感情と深くむすびついている。

7 生きる理由がどうしても見当たらなくなつたときに、じぶんが生きるにあたいたいする者であることをじぶんに納得させるのは、思いの外むずかしい。そのとき、死への恐れは働いても、生きるべきだという倫理は働かない。8 生きるということが楽しいものであることの経験、そういう人生への肯定が底にないと、死なないでいることをじぶんでは肯定できないものだ。お歌とお遊戯はその楽しさを体験するためにあつたはずだ。9 永井均は最近の著作のなかでこう書いている。「子供の教育において第一になすべきことは、道徳を教えることではなく、人生が楽しいということ、つまり自己の生

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

が根源において肯定されるべきものであることを、体に覚え込ませてやることである」と。0 あるいは、幼児期に不幸な体験があつたとして、それに代わるものを、それに耐えられるだけの力を、学校はあたえうるのでなければその存在理由はない。だれかの子として認められなかつた子どもに、その子を「だれか」として全的に肯定すること、存在理由をあたえうるのでなければ、その存在の意味がない。近代社会では、ひとは他人との関係の結び方をまずは家庭と学校という二つの場所で学ぶ。養育・教育というのは、共同生活のルールを教えることではある。が、ほんとうに重要なものは、ルールそのものではなくて、むしろルールがなりたつための前提がなんであるかを理解させることであろう。社会において規則がなりたつのは、相手も同じ規則に従うだろうという相互の期待や信頼がなりたつているときだけである。他人へのそういう根源的な（信頼）がどこかで成立していないと、社会は観念だけの不安定なものになる。

幼稚園でのお歌とお遊戯、学校での給食。みなでいっしょに身体を使い、動かすことで、他人の身体に起こっていること（つまり、直接に知覚できないこと）を生き生きとを感じる練習を、わたしたちはくりかえしてきた。身体に想像力を備えさせることで、他人を思いやる気持ち、つまりは共存の条件となるものを、育んできたのである。

（鷺田清一の文章から）

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 ルピナス 10.2週
★学校について友人と（感）

今週は感想文の課題です。

解説 10.2週

内容：幼稚園でのお遊戯やお弁当は他人の身体に起こっていることを生き生きと感ずる練習になっている。学校は共同社会で生きるルールを教える前に、そのルールの前提となっている他者への想像力や幸福の感情を教える場であるべきだ。

解説：保育園や幼稚園時代のことを思い出してみましょう。友達といっしょにお歌やお遊戯をしたことが懐かしく思い出されるでしょう。子供時代に同じことをして遊んだという経験は、人間が人間らしく生きる原点を形成するようです。孤独に過ごす時間というのも人間には必要ですが、それも他の人と共感できる能力に支えられてこそ意味あるものになるのでしょう。

解説のつづき 10.2週

第一段落は要約と意見を書きます。

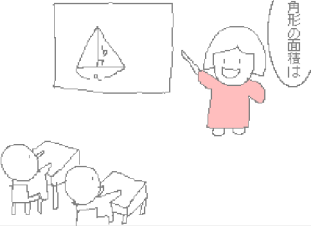
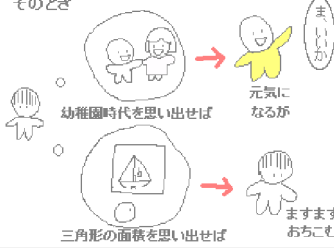
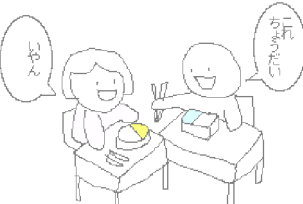
要約に続けて生き方の主題を挙げます。「私は他人を思いやる気持ちを大切に生きていきたい。」

第二段落は、そのための一つ目の方法と体験実例を挙げます。「そのための方法は第一に、コミュニケーションの力を見直すことだ。」伝えること、伝えられることの訓練は、自分の世界をひろげていくために欠かせないものです。読書にも似た要素がありますね。自分以外の他人の頭で考えると言う体験をもっと積み重ねるべきでしょう。

第三段落は、二つ目の方法と実例を挙げます。「また第二の方法としては、今までの学力偏重の教育方針を改めることだ。」学歴社会といわれて、どのくらい年数を重ねているのでしょうか。何もかも点数や偏差値といった数字に置き換えてしまうことで、見失ったものがあるはずです。自然の中で学ぶことで生きる力を得た偉人の話を引用しましょう。

第四段落は、反対意見に理解をしめしながら、名言の引用をしてまとめます。「確かに、人間は自分自身に対して孤独に問いかける体験も必要だ。しかし『良い友人を得たければ、まず自分が良い友人でなければならない。』という名言もあるように、私たちは他人を理解することは、とりもなおさず自分自身を他者に認めてもらい確認することにもなるから、相互の理解を図る思いやりの気持ちを大切に生きていくべきだ。

絵のヒント 10.2週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）

幼稚園のころはお歌とお遊戯だったが 	学校に入ると勉強ばかり  三角形の面積は	やがて二十歳になり、ある日失恋…… 人生に絶望しかかる 	そのとき  幼稚園時代を思い出せば 元気になるが 三角形の面積を思い出せば ますます おちこむ
確かに勉強も大切だが 	生きる力や 他人を思いやる気持ちを学ぶのが学校  ちゃん ちんぷん		

1 物ごろのついた子どもを動物園に連れてゆくと、たいていの子供ははじめて見る動物の姿に素朴な驚きと興味を示す。子供たちの目にまず映るのは、ゾウやキリンやライオンなど珍しい動物の形や色や大きさであろう。2 それらの動物の生息地の環境や生態、あるいは進化などに興味を持つのは、おそらく中学生以上になってからの話である。

科学の発展段階は、まさにそれと同じみちすじをたどる。

3 ある物事に興味を持ち、それを研究しようとするとき、まず誰しもが着目するのはその形態や振る舞い、すなわち現象論的側面である。星に名前をつけて星座としてまとめたり、岩石を結晶の形や色で仕分けをしたり、動物を哺乳類や魚類や鳥類ごとに分類したりすることがそれに当たる。4 次いで、もう少し詳しくそれぞれの存在する条件（たとえば場所とか温度とか）でその特徴を記述することを試みる。うまくいけば、その段階において、原理的なことを考えなくともある種の規則性が経験的に見つかる場合もある。5 科学の歴史上、そのような「経験法則」の例は枚挙にいとまがない。惑星の位置を丹念に追って得られた「ケプラーの法則」などは、その最たるもののひとつと言えよう。

6 しかしながら、もしそれぞれの科学が、そのような範囲の中のみとどまつているのならば、しよせんは記載的な博物学にすぎなくなつてしまふ。趣味としての博物学ならばそれもよからう。7 博識であること自体は決して悪いことではない。だが、より深く自然を理解しようとする意欲を持つている人々にすれば、博物学だけではいかにも物足りないことであろう。8 よく言われることであるが、天文学や氣象学の入門書が、ややもすれば星の名前や雲の形の記述に終始しているため、中学校の地学クラブのレベルを卒業した意欲的な学生の目から見て不満足なものに映るのは、たしかに反省すべきことと思われ

る。9 したがって、次に必要なことは、ある事物や現象の形態や振る舞いの奥にひそむ原理を追求することであらう。たとえば、台風について考える。0 記述的な筆法でいけば、台風とは熱帯の海上に発生する低気圧で、円形をしており、中心には眼があつて、半径は数百キロ、中心付近の最大風速は云々……ということにならう

が、もつと物理の目で台風を見るなら、次々と説明さるべき問題点が浮かび上がってくる。「台風はなぜ陸上で発生しないのか」「どうして高気圧性の台風はないのか」「台風のエネルギ源は何か」これらはみな、台風なら台風の、発生・発達する条件や過程つまり「成因」を問うていることにほかならない。さらに一歩進めるなら、「台風に伴つて大量に降る雨のもととなる水蒸気はいったいどこから運ばれてきたのか」とか「台風が熱帯で発生して北上し、中緯度で消滅するまでの間に、南と北の空気はどれだけ入れ換わるだろうか」といった疑問もわいてくる。これは、台風のもたらす「作用」を論ずることに相当している。考えてみれば、ハドレーの大循環論は、まず熱帯貿易風や中緯度偏西風といった経験的事実（現象論）から出発し、太陽の熱放射と重力による大規模対流の生成という運動の成因を論じ、さらにそのことが、地球全体の熱のバランスを満たしているという作用論にまで及んでいたのである。ここにこそハドレーの偉大さがあつたわけである。

（廣田勇「地球をめぐる風」より）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01



自分が、いままさに死にゆかんとしていることを知らないままに死んでいく人間などいないと、ぼくは思う。そうでなければ、人間が死ぬ必要などどこにもないではないか。人間は、そのことを思い知るために、死んでいくのだ。有吉の死後、ぼくが読書すら投げ出して考え続けたことは、それだった。だが何のために、そんなことを思い知らなくてはならないのか、ぼくには分からなかった。それを考えるとなぜかぼくは何かに祈りたくなるのだった。有吉が死んでからは、ぼくと草間とは疎遠になった。草間はその猛烈な勉強ぶりに拍車をかけ始めたし、ぼくはぼくで、ある新しい情熱を駆られて小説に読みふけるようになったからだ。その情熱とは、すでにとうの昔にこの世からいなくなつた多くの作家たちが、生きているときに何を書かんとしたのかを知りたいという願望だった。死人が小説を書けるはずなどなかったから、ぼくが捜し出そうとしていたことはばかげたお遊びに近かつた。だが、そのばかげたお遊びは、有吉の死がぼくに与えた後遺症だったのだ。ぼくはまもなく後遺症から立ち直り、あらゆる物語を死から切り離して考えるようになった。すべては死を裏づけにしていたが、死がすべてである物語は存在しなかったからである。

寒い朝、ぼくは草間からの電話で起こされた。「新聞に、あの絵のことが載ってるぞオ」と草間は言った。ぼくは電話を切らずに、そのままにしたまま、階段を降りて茶の間に行き、父が読んでいる新聞をひたたくつて二階に駆けのぼった。そして「消えた幻の名画」と見出しがついたコラムに見入った。それは事件としてではなく、ちよつとした町の話題として載せられたもので、ある日忽然と誰かに持ち去られてしまった百号の油絵の由来が紹介され、持ち主の談話が簡単につけ足されていた。喫茶店の店内から絵を盗み出してから、すでに八ヶ月がたっていたから、まさかいま頃になって新聞ざたになろうとは思ひもかけないことだった。作者の島崎久雄は幼い頃からじん臓を患い、長い闘病生活の果てに逝つた青年だった。多くのデッサンとペン画が残っているが、油彩の大きな作品としては、盗まれた「星々の悲しみ」のファンも多かったので、何とか手元に帰つて来てくれないものかと思っていると持ち

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

主は語っていた。「用事が済んだら、ちゃんと返しとくのがルールやて言うたやろ。志水がいつまでも返さへんから、こんなことになったんや」と草間はそれほど慌てている様子もなさそうに言った。警察ざたになった訳ではなかったもので、ぼくもそんなに動揺はしなかったが、そろそろ潮時だという気がして、草間に言った。「頼む、絵を返してきてくれよオ」「俺一人でか？ アホなこと言うなよ。新聞に載つたとたんにおかしな動き方をしたら余計に危ない。もうちよつと時間をあけてから考えたらええがな」「店の中の、元の壁に返しとくというの、なんぼ草間でも無理やろなア……」「草間の笑い声が、電話口から聞こえてきた。ぼくたちはその話は一応打ち切つて、互いの近況を語り合つた。「もう、へとへとや」草間は言った。「今が一番つらいときや。もうちよつとやないか」それから、ぼくはふいに感傷的になつて、ほんの少しの間涙ぐんだ。……「K大の医学部絶対に通れよ。癌なんかやつつけてしまふ医者になつてくれ」

ぼくは二、三日、落ち着かない日を過ごした。「星々の悲しみ」から、出来るだけ遠ざかっていたかった。だが、そうなるといつときも早く、絵を持ち主に返してしまいたくて仕方がないようになってしまった。ぼくは意を決して、妹の加奈子に新聞の記事を見せた。そして妹に手伝わせて、壁に掛けてある油絵を降ろし、畳の上に立てかけた。そして、八ヶ月前の雨の日、図書館の横の古い橋の上で、初めて草間と有吉の二人と言葉を交わしたときのことを話して聞かせた。

「あれから、たつたの八ヶ月やぞオ」そう言つてしまつてから、ぼくはその間に読んだたくさんさんの小説の行方を思った。悲劇も喜劇も、悪も善も、恋愛も官能も、心理も行動も、ことごとく陰翳を失つて、ぼくの中に潜り込んでしまつていた。ぼくは何も得なかったようでもあったし、積み重なつた透明な後光を体中に巻きつけているようでもあった。加奈子が自分の部屋に戻つてしまつと、ぼくは古新聞を集めてきて、絵の包装に取りかかった。乾いたタオルで額についた埃を拭いた。それから、もう二度とぼくの手元に帰つてくることのない「星々の悲しみ」を見た。

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

「凄^{すご}いなア」死^しんだ有^{あり}吉^{よし}は、この絵を見てつぶやいたのだった。
 「この絵、もつとほかの題がついていたら、何でもなかったの絵か
 も知れへんなア」――絵はいつになく光っていた。蛍^{けい}光灯^{こう}の光を受け
 て、樹木の葉は水に濡^ぬれたように色づき、初夏の陽光は真夏の日差し
 に変わってまばゆく輝^{かが}いた。どこからか蟬^{せみ}しぐれも聞こえてくるよう
 だった。ぼくは、結局いつかの加奈^{かな}子の解^{かい}釈^{しゃく}が、いちばん正しかった
 のではないかと思った。加奈^{かな}子は、麦^{あわ}わら帽^{ぼう}で顔を覆^おって大木の下で
 うたたねしている青年を、死^しんでいるのだと思^{おも}ったのである。絵の作
 者は、自分の死^しんでいる姿を描^えいたのだと。もし本当にそうだとした
 ら、この絵にもつともふさわしい題名は確かに「星々の悲しみ」以外
 ではないか。ぼくは、葉の繁^{しげ}った大木の下に有^{あり}吉^{よし}を横^{よこ}たわらせ、
 そのとてもきれいな死^しに顔を麦^{あわ}わら帽^{ぼう}で隠^{かく}した。

(宮本輝^{みやもとてる}「星々の悲しみ」)



99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67



課題 ルピナス 10.4週 ★清書（せいしょ）
4週目は清書です。

1 時計を選ぶときにはいろいろな選択肢があるが、文字盤がアナログかデジタルかで選ぶというのもある。液晶式デジタルウォッチが世の中に登場したのが一九七二年。2 時計の表示方式の革命といわれたように、選択肢が一気に広がり、以後、デジタルウォッチは電子製品の特徴である、量産化による大幅な経費削減で急速に市場を広げていく。

3 一九七九年と八〇年の二年間の日本の時計生産ではデジタルがアナログを上まわるほどにまで成長したが、今度はその反動で「アナログ回帰」現象が急に起こり、九〇年にはデジタルの比率は二割にまで落ち込んでしまった。4 その後デジタルに魅力的な製品が開発され、最近では国内市場の三割程度がデジタル時計と考えられる。

情報として考えるならば、デジタルは、細分化された「断片的情報」である。5 より正確な情報をドライかつ明確に表示することには優れているが、前後との関連や全体のなかでの位置づけを表すことには不向きだ。一方のアナログは、「情緒的情報」ともいわれるように、全体の傾向や位置づけを表すのは得意だが、細かい部分を見るにはわかりにくい。6 グラフでいえば、円グラフや折れ線グラフがアナログ情報である。

では、時計の表示としてはどうか。アナログ時計は瞬時にのおまかな時刻を読み取ることと、残り時間を算出しやすいという点で優れており、デジタル時計は正確な時刻を表示する点で勝っている。

7 面白いもので、人から時刻を聞かれたときにアナログ時計をしていると「一〇時半」と答える人が、デジタル時計をしていると「一〇時二九分」、場合によっては「……四五秒」と秒数までも答えてしまう。8 アナログ情報は読み取るときに頭の中の思考回路を働かせないと答が出せないのに対して、デジタル情報は表示の数字を読みあげるだけで済むからである。残り時間を出す場合、アナログ時計は見ただけで認識できるが、デジタル時計は頭の中で逆算しなければならぬ。

9 もっとも、時計が60進法を採っているためにデジタル派はいくそ不利になっている。とくにわれわれ日本人は算用数字イコール10進法という固定観念が強く働いてしまうのかもしれないが、10…59の次が10…60にならずに11…00になるのは、頭ではわかっているが実感がともなわない。0 デジタルだと、「まだ時間があ

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

約束に遅れてしまったりするのは、そのためだ。では、表示以外については、デジタルとアナログでどう異なるのか。

アナログ時計には針を動かすための歯車があり機械部分が残っているが、デジタル時計は「全電子時計」と呼ばれるように、機械的動きの部分がまったくない。したがって部品点数が少なくなる（自動巻きで、安く、かつ軽くなる。正確で安い経費の時計をつくるにはデジタルが最適だ）。

一方、アナログ時計の最大の利点はデザインの多様性だ。デジタルの数字のようにデザイン上の制約がないので、丸型にも角型にもできるし、文字盤一面に模様を入れることもできる。したがって、スポーティ感覚のデザインでも、高級感あふれるドレスウォッチでも思いのままだ。宝飾時計の分野などはアナログ時計の独壇場といえる。

近年デジタルウォッチが盛り返してきたのは、その頭脳である大容量のLSI（大規模集積回路）の価格が下がってきたために安い経費で調達できるようになり、メモリー（記憶）機能やセンサー（感知）機能が加わって、これまでのウォッチの概念を超えるユニークな多機能ウォッチが登場したためだ。このような機能を発展させていくと、腕につけているだけで時計が体温、血圧、脈拍などを測り、定期的にかかりつけの病院へ情報を送信し、異常があると呼び出し機能で呼び出される……などという日も近いかもしれない。（中略）

アナログウォッチも変わってきている。頭脳にIC（集積回路）を使うようになっただけでなく、近年はそのICに演算処理機能をもたせた時計が実用化している。これによってアナログ時計でありながら時と場合にに応じて、ストップウォッチやタイマーなど別時計を同じ文字盤に表示する多機能のアナログ時計ができたのである。もちろん、元に戻せば、正しい時刻が表示される。まさにデジタルの頭脳をもったアナログ時計だ。

時計のエレクトロニクス（電子工業）化がデジタルウォッチを生み、アナログ時計にも便利なものが登場した。人間の脳にも右脳と左脳があるように、時計のデジタルとアナログも共存共栄で発展していくことだろう。（織田一郎の文章による）

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

解説 11.1週

解説のつづき 11.1週

第四段落は、反対理解と名言の引用。「確かに自分の得意なものを伸ばすという考えもよい。しかし、私はアナログとデジタルの両方を兼ね備えた人間になりたい。『すべてに効くという薬は、何にもたいして効かない』という言葉がある。アナログかデジタルかどちらかを万能視するのではなく、両方を使いこなすことが大切だ。

絵のヒント 11.1週 (低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください)

デジタル時計は正確なので、実感がわかない。

アナログ時計は全体の傾向が一目でわかる。
でも正確ではない。

人間の脳にも右脳と左脳があるのだから、
両方の長所をうまく生かせよう。

右脳
アナログ
絵・グラフ

左脳
デジタル
数字・文字

アナログを生かす。

ワカヤサイ

デジタルを生かす。

コピーと貼り付けへ

<http://members.com.ne.jp/~wakyaie/kao/kaoimg/ks12.htm>

長文 11.2週 ru

1 もう三〇年も前のことだが、一九六〇年代の中ごろ、ヨーロッパの街角で初めて日本車が走っているのを見たとき、涙が出るほど感激したことがある。

2 当時の日本の工業製品は、まだ性能的にも機能的にもかなりお粗末で、欧米に対抗できるのは価格だけといわれていた時代である。自動車も例外ではなく、これでドイツのアウトバーンをフルスピードで走ることができるのか、と現場技術者の間で心配の声が出るほどだった。

3 それが、今では「メイド・イン・ジャパン」といえば、性能の良さ、信頼性の高さの代名詞にさえなっている。技術後進国だった日本は、欧米に追いつこうと懸命にキャッチアップを続けた結果、わずか三〇年で追いつき、追い越してしまったのである。この速さは特筆に値する。

4 キャッチアップの速さは、何も戦後の製造業に限ったことではない。奈良の大仏や戦国時代の鉄砲に代表されるように、日本人は異質で高度な文明・文化に触れたとき、それを率直に評価して猛烈な勢いで取り入れ、追いついてきた。

5 鉄砲を例にとれば、一五四三年（天文一二年）種子島に伝来した火縄銃はわずか二挺にすぎなかったといわれている。それがあつという間に全国に伝わり、世界有数の鉄砲製造国になってしまった。

6 この驚異的なキャッチアップの速さを可能にした秘密は、どこに隠されていたのか。一言でいえば、最新技術を受け入れ、消化するだけの素地Ⅱ潜在能力が、既に日本にあったということである。

7 鉄砲の場合は伝来以前に高度な金属加工の技術の蓄積があつた。また、明治以降の近代化も、その前提条件として、日本の木工技術が既に欧米人が目を見張る段階にまで成熟していたという事実がある。

8 産業構造においても、素材から下請けにいたるまで、すべての社会的機能が整っていた。これらの要素が複合して近代化のスピードを速める基盤となつたのである。

9 にもかかわらず、現代の日本人は、この驚異的な速さのキャッ

チアップを可能にしてきた自らの潜在能力に誇りをもっていない。それは、欧米から「もの真似上手」という思いもよらぬ批判を浴び続けてきたからである。

0 「もの真似」だけが上手で独創性はまったくない……というマイナス評価が繰り返し伝えられたため、独創性欠如コンプレックスに陥ってしまったのである。

しかし、歴史を少しひもといてみると分かることだが、かつての日本人は、「もの真似」に対してそれほどコンプレックスを抱いてはいなかった。例えば、職人の世界に代表される技術の現場では、昔から必ずグループで仕事をしてきた。そこでは、一人が何か新しい技術をマスターすると、みんなが真似をした。教える際も手取り足取りではなく、「習うよりは慣れる」、あるいは「見て盗め」と突き放して技術を覚えさせた。つまり、学ぶということは、徹底して「真似る」とだったのである。

芸事などでも、古くから「守・破・離」という一つの発展段階説があつた。まず、伝統的な古いやり方を、そのとおりに守って徹底して学ぶ。そして基本技術を十分にマスターした上で、次の段階として古い伝統的なものを破り、やがては学んだものと離れて、まったく独創的な方式を確立し、新たな流派を形成（Ⅱ立派）していった。

このように、日本人には、徹底して「真似る」Ⅱ「学ぶ」姿勢こそが独創性を発揮する大前提であるとする歴史があつたのである。それを「真似る」Ⅱ「独創性の欠如」と勘違いするようになったのは、「守・破・離」の「破」と「離」の識別が明確にされていなかったからではないだろうか。（中略）

大切なことは、時代的发展段階を織り込んで考えてみることである。現代では世界の最先端をいくアメリカも、一九世紀には技術後進国でヨーロッパの進んだ技術文明を模倣していた。その証拠に、アメリカ人がノーベル賞を多く受賞し始めたのは、たかだか第二次大戦以降になつてからだ。日本人が「もの真似上手」と言われることに、過度のコンプレックスを抱く必要はまったくないのである。

（石井威望「日本人の技術はどこから来たか」による）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 ルピナス 11.2週
★もう三〇年も前の（感）
今週は感想文の課題です。
解説 11.2週

内容：奈良時代の大仏、戦国時代の鉄砲、そして現代の工業製品と、日本には最新技術を受け入れ消化する潜在能力があった。近年、真似をすることが独創性の欠如であるかのように言われているが、日本には真似ることを学ぶための確実な方法と考える伝統がある。芸事でも基本技術を十分にマスターしたあとに次の段階として独創性が出てくる。日本人は「もの真似上手」と言われることにコンプレックスを抱く必要はない。

解説：「守・破・離」というのは勉強にもスポーツにも言えるようです。スポーツでは、初めは単調な基礎練習をしっかりとします。サッカーでも、ドリブルやパスが満足にできないうちに、オーバーヘッドキックをしようとしたり、新しい回転稲妻シュートを考えついたり（そんなのあるか）する人は、みんなから「いいよいいよ。あいつは勝手にやらせておけ」と言われてしまいます。逆に、ひとつのことを徹底的にマスターすると、次第に自分の独創的なやり方を試みてみたくなってきます。独創的なやり方は、初めはうまくいかないことも多いでしょう。「破」の段階では、かえってレベルが下がってしまうこともあります。しかし、その段階を越えると、前とは違った次元に進むことができます。

「守」の段階にとどまっていたら進歩はありませんが、「守」の段階をしっかりとマスターしておかなければ、その後の発展もありません。真似ることの大切さということで、自分の生き方に結びつけて考えてみましょう。

解説のつづき 11.2週

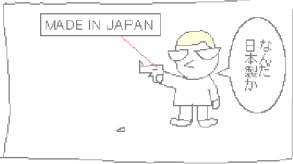
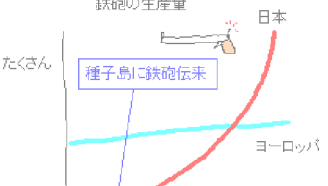
第一段落は、長文の要約と意見（生き方の主題）。「模倣にコンプレックスを持つ必要はない。模倣できる能力に自信を持って生きていきたい。」

第二段落は、方法１と体験実例。「そのための方法としては第一に、よい手本を探すことだ。私も、バスケットのシュートフォームがなかなか決まらないので、上手な人の形を真似てみるところから始めた。すると……。」

第三段落は、方法２と社会実例（伝記）。「また、第二の方法としては、学校教育などで、模倣の大切さを教えていくべきだ。伝記のエジソンは生まれつき独創性があったかのように描かれることが多いが、そのエジソンが図書館の本をかたっぱしから読んでいったことはあまり知られていない。エジソンは、本を読むことによってそれまでの文化をしっかりと模倣したからこそ、その後の偉大な発明ができたのである。」

第四段落は、生き方の主題と名言の引用。「確かに、模倣だけで終わってしまっては進歩がない。しかし、模倣は創造の基礎なのである。模倣にコンプレックスを持たないように生きていきたい。「持ち物を気にするのは、実力に自信がない証拠である」という言葉がある。模倣する力を持っているということに、もっと自信を持って生きていきたい。」

絵のヒント 11.2週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）

昔は、  アメリカの映画館	こういう時代があった。  ハハハハ ヤッパリネ	今は、  オト	鉄砲の生産量  日本 ヨーロッパ 種子島に鉄砲伝来
もの真似コンプレックスを持つ人もいるが、  キャッチアップ力	真似は独創の前提である。  独創（離） 真似（守）		

1 昔話の研究をすることは、そこに隠された民衆の知恵のようなのを感じることになり、現代に生きるわれわれに対しても思いがけぬ示唆を与えてくれる。

2 昔話と老人ということになると、まずわが国の昔話にはよく老人が登場することに気づかれるであろう。実はこのことは日本の昔話のひとつの特徴であり、内外の昔話研究者の指摘しているところである。3 このことをどう解釈するかはここでは触れないでおくが、昔話に登場する老人がどのような知恵を与えてくれるか調べてみることにしよう。「うばすて山」という昔話では、六十歳になつて山にすてるべき老人を息子がかくまっている。4 殿様があるとき「灰で縄をなつて来い」と百姓たちに言いつける。だれもできずに困っているときに、老人が息子に、縄を固くなつて、それをだいに焼いて灰にしてもつてゆけと教えてやる。このようなことから老人の知恵が殿様に認められ、うばすての習慣がとりやめになる。5 この昔話が極めて象徴的なことは、皆が灰で縄をなうのに苦労しているとき、老人はそれを逆にとらえて、縄をなつてから灰にしたことである。

老人の知恵は思考の逆転の必要性を示している。6 このような思い切った発想こそ、われわれが老人のことを考えるときに必要なことではなからうか。老人は何もできない、能率的でないから駄目だと皆は言う。これを逆転して、老人は何もしないし非能率的だから価値があると考えてみてはどうだろう。7 実際、われわれはあくせく働き、能率や進歩を追求してきて、本当に幸福になつたであろうか。物質的豊かさや精神の貧しさに病んでいないだろうか。8 何をしたのか、どれくらい利益を得たのか、そんなことにわれわれがあまりにもこだわりがちとなるとき、ただそこに存在するだけという老人の姿は、価値とは何かについて重要なことを教えてくれるのではなからうか。

9 「貧乏神」という昔話にでてくる老人は、もつと思ひ切つた知恵を授けてくれる。詳細を語ると面白いが省略してエッセンスのみを言くと、若夫婦の家に住みついた貧乏神の老人が金もうけの

方法を教えてくれるのだ。0 それは、殿様の行列が通りかかるのでその駕籠のなかを目がけてなぐりこめ、というのである。結局、若者は老人の言いつけに従つて金を獲得するのだが、ここで「殿様をなぐる」などというまったく途方もないことがでてくるところが興味深いのである。

封建時代には殿様は絶対的な存在である。それに対してあえてなぐりかかるものこそが、黄金を獲得できるのだ、と老人の知恵は告げている。ユングは無意識が意識の一面性を補償する傾向があることを、つとに指摘している。昔話もそれと同様に公的で常識的な考えを裏から補償する傾向をもっていると思われる。従つて、それは思いがけない解決の道を示唆するのである。殿様が絶対的であつた時代に、このような話をもつていた日本の民衆というものは、なかなかの活力を底に秘めていたのではなからうか。

ところで、昔話には類話というものがあり、「貧乏神」にもいろいろな類話が存在している。それを見るとまた興味深い。殿様をなぐるのに気がひけて家来をなぐつたので、大金持ちになれず小金持ちになつたというのがある。あるいは、貧乏神の老人に福の神が通るからつかまえろと教えられるが、たくましい馬がやってきて怖くてつかまえられる。二度も失敗して最後に弱そうなのがきたのでとびつくと、それは貧乏神で元どおりになつたなどという愉快なのがある。これは、「ものごとをやるときは思い切りが必要だ」ということを示しているものとも言えるが、せつかくとびついたら元の貧乏神というところにも巧みユーモアがあり、どうせ貧乏でもいいさという諦観のようなものさへ感じさせる。類話のなかにはどうせ同じこととひらき直つて金持ちになる話も存在している。

これらの類話の多様性は人生の問題の解決法の多様性を示している。これだけなければ、という固いことではなく、人によつていろいろの生き方があり、それはそれなりに面白いものだ、と昔話の知恵はわれわれに語りかけてくるのである。このように昔話を読むことは、現代のわれわれの生き方と直接につながってくるのである。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 ルピナス 11.3週
★昔話の研究を（感）

今週は感想文の課題です。

解説 11.3週

内容：昔話に見られる民衆の知恵は、現代の生き方にも示唆を与える。「うばすて山」は老人の知恵の必要性を示している。「貧乏神」は、思い切りの大切さや貧乏への諦観を示唆している。また、昔話に見られる類話の多様性は、人生の問題の解決の多様性を示している。

解説：昔話を読んで、自分の生き方の参考にした話などを考えてみましょう。「みにくいアヒルの子」などを読むと、今の自分の状態が満足できないものでも、将来に向けてがんばろうという気になるでしょう。

この長文全体について主題を決めるというより、自分の印象に残っているあるひとつの昔話に関連させて生き方の主題を決めていくといいでしょう。

解説のつづき 11.3週

第一段落は、長文の要約と意見（生き方の主題）。生き方の主題は、（１）「昔話に生き方を学ぼう」のように一般的に書いてもいいし、（２）「こういう昔話で生き方を学んだ」と具体的な話を通して書いてもいい。

第二段落は、方法１と体験実例。「そのためには、第一に、昔話だからと言って幼稚なものだとは思わずに、そこから人生の教訓を読み取るように心がけることだ。」体験実例は、「小学生のころに読んだ『かさじぞう』で、私は思いやりの大切さを学んだ。」など。

第三段落は、方法２と社会実例（伝記）。「第二の方法としては、昔話の文化をしっかりと保存しておくことだ。『古代への情熱』の著書シュリーマンは、子供のころに絵本で読んだトロイ戦争を信じ、独力でトロイの都を発掘した。」

第四段落は、生き方の主題と名言の引用。「確かに、現代の最新の知識や技術を生かすことは大事だが、私たちはもっと昔話から生き方を学んでいくべきではないか。」名言は、「悪書を読まないことは、良書を読むための最初の条件である」「読書は人間を豊かにし、討議は人間を役立つようにし、文章を書くことは人間を正確にする」など。子供時代に流行の本を読むのでもいいが、まず昔話をしっかりと読もう。

絵のヒント 11.3週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）



そのとき、はじめてお悔やみを言いました。

「お蝶小母さんが亡くなられて、私もさびしくなりました。」

すると、私のまんまえてこちらを向いていた榮作小父さんは、ほんとうに静かな動作で、つうつと横を向いてしまい、そのまま直立の姿勢をくずさないでいるのでした。まわりに同じ村の人たちが四、五人はいたのですが、敏感にその場の気配を察して、私と榮作さんの間の雰囲気をもつとしておくために、心をくばったようです。瞬時のことです。

妻をなくして、もうだいぶ月日がたっているのに、夫である榮作さんのつらさが、私に挨拶されて、そんなにも新しくよみがえったことに、まわりの人たちがいたわりを見せたのでした。細身で、どちらかといえば背の高い、農仕事でひきしまったからだ。面長で鼻筋のおつた顔は、陽が照り残っているようなつやを見せています。七十は越しているのに髪も黒く、目も切れ長に黒い。その人が少年のように、口もきけず横を見たまま、まっすぐ遠くをみつめている。たぶんあふれてくるものを見せまいと、背筋を張っていたのに違いありません。その姿は木のように素朴で、悲しみがつつ立った感じでした。いきなり横を向かれた私にも、すぐそのことが会得されました。私はちつとも困りませんでした。そして黙って立ちました。隣り合わせた一本の木のように。(中略)

横浜での、心のシャッターチャンスがとらえた一枚のスナップについて、これが簡単な説明です。私はこの無形の写真をときどき思い浮かべると、どうしてか気持ちがあつとふくらんで、くちびるの辺りがほころびてくる。これをユーモアと名付けてよいものか、どうか。ふだんは礼儀正しい明治の老人が、礼を忘れた姿に、日がたつてからとはいえ、私がかすかなおかしみを味わうとしたら、これは第三者の残酷以外のなものでもないのですが、私にはやはりユーモアと名付けるのがいちばんふさわしく思われます。なめれば甘い、というような単純さで、笑ったからユーモアだ、というのは別種のもの

伊豆の、山家の、炭焼きさんの、という、うたうような語り口。なぜかあの村へ行くと、人々のやりとり、会話にリズムがあるのを

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

感じます。一軒の家の囲炉裏に隣近所のひとが寄ってきてかわす会話の機知に富んだ軽妙さ。ひとつひとつ覚えておかなかったことが残念ですが、覚えるほどのことではない、また覚えきれることではない日常性が、小川の流れるのように、上手に時間を、人と人との間柄をとりもって運び続けているのかも知れません。それはまちがいがなく「ことば」の果たす役割でした。遠慮のなさ、気取りのなさ、かなりな冗談。それでいてふつと黙る部分がある。それが動作に出る。

先ごろ田舎に帰ったとき、榮作さんはからだが弱くなって寝ている、というので、その庭先からたずねると、いまはあるじの息子が出てきて私に言いました。「ハイ(もう)年ですからノ。年に不足はないガです。」いちおう声をひそめているものの、障子越しにつつぬけなのはわかっていて、それを、ハラハラなどしないで聞いている自分に、私は確かにここは岩科だ、と思うのでした。通常、跡とり息子が親に対して、そんな陰口をきいたら、お互いどんなメクジラをたてるだろう? 「年に不足はないガです。」そんなことをサッパリと、他人向けに言ってみせる。息子は充分親孝行で、親は親で、案内された囲炉裏ばたで茶をすすっている私のところへひよつくりあらわれ、きちんと膝をそろえるのでした。「この蜂蜜は、自分のに採ったガです。東京へ持って下さい。」挨拶や説明はすでに家族がすっかり済ませているのを承知で、榮作小父さんはいきなり四合びんを私のかたわらに置くのでした。透明な器の中で、とろりと濃い蜜が、びんの首まで届いています。

私はまだまだ顔色のいい榮作さんに目をあて、小父さんはいいい耳をしていると、つくづく思いました。

(石垣りん「焔に手をかざして」)

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 ルピナス 11.4週 ★清書（せいしょ）
4週目は清書です。

長文 12.1週 ru

1 日本のふつうの書きことばでは、漢字の地位が絶対的に高く、それに比べてカタカナは、代用的な役割しか引き受けていない。前者は高度に抽象的な概念の表記に不可欠とされるのに対し、後者はガチャガチャ、ドタバタなど、できごとそのままをむき出しにした、いわば幼稚園文字である。

2 ところが、カタカナが時に、この地位を逆転して、漢字のはるかに及ばない威信を帯びることがある。欧米の学芸や学芸人を示すのに用いられるばあいそうであつて、たとえば「フイロゾフィー」が「哲学」より一段高い威信をあらわすとき、かの幼稚園文字が、一転して欧米先進文化の光りかがやく代弁者の地位に躍り出るのである。

3 しかしそうなるのは、もともとが漢字ではない文字のあらわす音をカタカナが示そうとするばあいに限るのであつて、もとにあるのが漢字であるとなれば、事態は一変してしまう。4 もしその漢字の音をカタカナで写し、それで押し通そうとするならば、思いもかけないほどの強い抵抗に出会うであろう。たとえばその国で一般にそう呼ばれているように「トン・シアopin」と書くところか不安なのに、漢字で書いて、トール・ショーヘーと読めば、普通の日本人は安心するだろう。

5 この日本式呼び名を聞いて、それが誰だかわかる中国人はほとんど居ないにもかかわらずである。この安心感は、音はなぞりでしかないのに、漢字はオリジナルで不変だという安心感から来ている。しかしそのオリジナル性は、音のオリジナル性を全く犠牲にした上に成り立った、無努力、横着のオリジナル性である。

6 こういう一面的なオリジナル性の上にできた二つの言語間の交流は、たいていは一方の側の、ときには双方の側からの独善にもとづき、まがいものであるのが普通だ。7 なぜなら、人は話をするることによつて交流するのが基本だからである。そうでない、文字だけの交流は、その文字エリートや、かれらの作った制度によつて管理されたものだからである。

8 いま私がかりに韓国に行つて、その男ないしは女と仲良くなつたとする。その仲良くなり方が学問的、職業的なものか、より人間的なものであるかは問わない。とにかくその人が自分を「カン」だとなれば、私はその人の名を「カン」さんとして心の中に刻み

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

つけ、終生変えることはないだろう。9 しかしその人の名を学生名簿とか新聞記事で「姜」という文字によつて知れば、その日本式読み方に従つて「キョウ」と発音することになるだろう。それは紙の上のつき合いにとどまるからそれですむのであるが、もし彼、もしくは彼女を私が愛していれば、絶対に「カン」でなければならぬ。

0 文化の交流が一方的に統制されたものから相互的で直接的なものへと移ると、ことばは紙から抜け出て音になる。韓国の人気歌手チョー・ヨンピルを愛するファンが、どうして彼をその紙のことばの趙容弼に従つて、チョー・ヨンヒツなどと呼びかえる気になれるだろうか。ヨーヒツは決してヨンピルではないのである。福岡に居る韓国人牧師さんが自分の呼び名のことばで、もう十年来こういう訴えを続けているのに、日本の裁判所はわかるうとしない。つまり、ことばには愛があるということを理解しないのである。

田中克彦「国家語をこえて」から（一部直す）

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 ルピナス 12.1週

★日本のふつうの書きことば（感）

今週は感想文の課題です。

解説 12.1週

内容：日本では、文字はオリジナルで音はそのなぞりであるという考えがある。中国や朝鮮の人の名前の呼び方が漢字の文字とカタカナの音に分かれる場合、紙の上だけの関係であれば文字で済むが、愛を伴った関係であれば、相手の名前を音で呼ぶはずである。

解説：「ギョエテとは俺のことかとゲーテ言い（Goethe）」（ゴエセとも読めそう）言葉には愛がある、というのは、身近な例にもあります。例えば、好きな人の名前を「えーっと、君の名前、なんて言っただけ」など言ったら、いっぺんにふられるでしょう。

日々交わす挨拶の言葉も、その言葉の背後に愛があります。みなさんが学校で友達に会って「おはよう」と言うとき、実は「おはよう（愛してるよ）」というメッセージを相手に送っているのです。

逆に、ほかの人から「ねえねえ。この前のあれ、どうだった？」と聞かれたときに「べつに一」と答える場合、それは実は「べつに一（うるせえなあ）」というメッセージを相手に送っているのです。

言葉を受け取るときにその言葉の中に愛を感じ、言葉を発するときにその言葉の中に愛を乗せられるような感性を育てていきましょう。それを複数の方法で考えられるかな。

解説のつづき 12.1週

例えば、中国に遊びに行ったときに、自分の名前を中国語読みで呼ばれる場合と日本語読みで呼ばれる場合とどちらがうれしいかと考えてみましょう。（どちらでもいいような気もするが。^^;）。言葉は単なる記号ではなく、そこに相手に対する思いやりが込められています。ここから、自分の生き方を考えていきましょう。

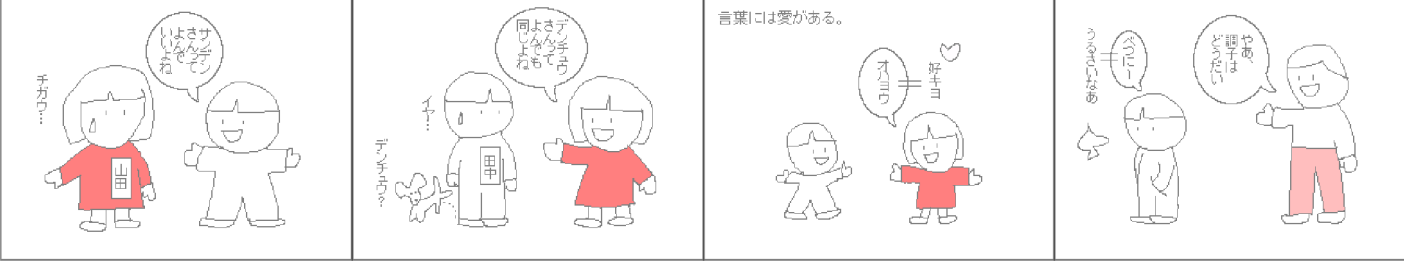
第一段落は、要約と意見。「私は、言葉に愛を込められるような生き方をしたい。」

第二段落は、その方法と体験実例。「そのためには第一に、相手の名前などをしっかり覚えておくことだ。私も、校長先生から突然、「やあ、〇〇君」と自分の名前を呼ばれたときは、とてもうれしかった。（しかし、焦ったが）」。

第三段落は、方法2と伝記実例。「また第二の方法としては、国同士の間でも、相手の言葉や文化を尊重することだ。伝記の例で見ると広大な帝国を築いたモンゴルのフビライは、それぞれの地域の文化をそのまま生かす政策をとったために、征服された地域からの反感が比較的少なかったと言われている。これに対して、征服地域の言語や名前などを無理矢理に変えるような同化政策をとった日本は、今でも韓国で評判が悪い。」

第四段落は、反対理解と名言の引用。「確かに、合理的に物事を進めるためには、言葉を記号として扱う方が便利な場合もある。その一つの例が住民基本台帳ネットワークに見られる国民総背番号制だ。しかし、私たちは、言葉に愛を込めるような生き方も忘れてはならないだろう。『家とは、外から見るためのものではなく、中で住むためのものである』という言葉がある。名前もまた、外から見るための符号ではなく、その中で生きている人間と密接に結びついていると考えるべきである。」

絵のヒント 12.1週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）



1 最近わが国では、あらゆる所で「国際化」の必要が唱えられている。金融・流通機構・労働市場は言うに及ばず、教育改革の論議の背後にまでも、「国際化」が日本人の国民的課題であると言わんばかりの言い方がなされている。

2 しかし、「国際化」とは一体何だろうか。わけもわからずこの言葉を合言葉のように振り回して、日本を一定の方角へ闇雲に駆け立ててしまう前に、いま冷静に踏み止まって言葉の意味を問い直し、その用法を吟味し、他国との比較を試み、その上で進むべき方向を模索しても遅くはないのではなからうか。

3 世界において「国際化」がスローガンながらに叫ばれているのは日本だけである。欧米世界に、これをめぐる議論も、自己反省も存在しないし、第一、日本人が使っているのと同じような意味での「国際化」という言葉が存在しないのだ。4 私が知る限りの欧米人に聞いてみると、彼らはまず第一に、日本語の「国際化」というこの言葉が何を意味するかが分からないと言う。

思うにその理由は、欧米世界は現実においてすでに「国際化」されているから、今さらそういう言葉を必要とはしていない、という事情があるためだと一応は考えられる。5 彼らの大半は無意識のうちにそういうぬぼれている。欧米で通用してきた尺度は、従来、そのまま世界に通用する尺度でもあったからだ。6 そして、他方において、日本人が「国際化」の必要をかくも熱心に唱えるのは、日本人自身が今なお自分を閉ざされた特殊な民族と意識し、それを克服しなければならぬ欠点と判断しているからだだろう。

7 しかし、果たしてそう単純に考えていてよいのだろうか。世界地図を見渡してみると、「国際化」されていない、閉ざされた国ばかりがやたら目立つ。イスラム、中国、ソ連ばかり。米国や欧州だって、完全に「開かれた」国々だと果たして言えるだろうか。8 自分の暮らし方を民主主義の最高形式と信じ、自分の正義を他国に押しつけ、外国語を学ぼうとさえしない米国民。近代科学と進歩の理念が自分に発し、地球全体に拡がったことを理由に、久しい間自己中心史観にあぐらをかき、キリスト教を欠いた文明はみな野蛮で、未解放とと思っている西欧人。9 一体彼らがどうして「国際化」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

された、開かれた民族と言えるのであろうか。自分を閉ざされた国だといつも意識している日本人の方が、よほど心理的に開かれていて、外の世界から謙虚に「学ぶ」という伝統的習性を保持しているのではないだろうか。0 ただ、国際会議が主に英語で行われるなど、世界の運営がこの二、三百年欧米の基準でなされてきたので、（欧米の閉鎖性）ということが今まではどうしても見えにくかったまでののだ。閉鎖的な自己中心癖はこの国でも同じで、他国にぬけぬけと「国際化」を要求できるほど公平で、無私の国民など、まずあり得まいと私は信じている。

それにもかかわらず、日本の、「国際化」が求められる所以は、貿易、軍事、文化交流、等々において世界を支配しているのは、今のところはまだまだもっぱら欧米の論理であって、日本はそれに自分がある程度合わせない限り、国としての生存を維持できないからにほかなるまい。つまり、「国際化」は必要から、やむを得ず強いられることであって、決して美しい正義の御旗なのではない。国が生き延びていくために、どうしても欧米の論理への適応化を必要とするならそれはそれでいい。いくらでもそういう覚悟でやったら良いと思う。ただ「国際化」が、日本の特殊性を普遍化してくれる絶対善だからそうするのはは断じてない。日本は特殊で、欧米は普遍だなどというのは、過る迷妄にすぎない。単に実用的必要の見地から、日本はいま外に向けてある程度開かれようとするのであって、したがって、「国際化」という甘美な言葉の使用をむしろやめ、はつきりと「欧米の秩序への適応化」という正確な言葉を使う方が、かえって誤解は避けられる。

この場合の「誤解」とは日本人の自己誤解である。日本には聖徳太子の昔から、文物を外に求め、己をむなしくして、外の世界に自分を柔軟に合わせるという美点——島国人としての自意識が非常に発達している。この美点と、政治的経済的必要から欧米の作り上げた秩序に一時的に自分を適応させるという現代的課題とを、日本人は「国際化」という同じ一つの言葉の中で、ごちゃ混ぜにして用いていないか。（西尾幹二「国際化への疑問」）

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 ルピナス 12.2週

★最近わが国では、あらゆる所で（感）

今週は感想文の課題です。

解説 12.2週

内容：最近わが国では、あらゆる所で「国際化」の必要が唱えられている。世界において「国際化」がスローガンさながらに叫ばれているのは日本だけである。欧米世界は現実においてすでに「国際化」されているから、今さらそういう言葉を必要とはしていない、という事情があるためだ。日本の「国際化」が求められる所以は、貿易、軍事、文化交流、等々において世界を支配しているのは今のところはまだもっぱら欧米の論理であって、日本はそれに自分がある程度合わせない限り、国としての生存を維持できないからにほかなるまい。しかし日本が特殊だというなら、欧米もまたキリスト教の神の観念に呪縛された一個の特殊である。

解説：日本では、他人にどう思われているかということや他人と比較してどうかということがよく話題にされるようです。「ヨーロッパではこうなのに」「アメリカではああなのに」「それなのに、日本は……」という話を、みなさんもよく聞きましょう。こういう、日本人の他と比較する考え方が、欧米への短期間のキャッチアップを可能にしたのも事実ですが、最近では自分の考え方がないことが逆に批判されているようです。

生き方の主題は、相手の立場や意見は尊重するが、自分は自分らしく、ということで考えていくといいいでしょう。

解説のつづき 12.2週

第一段落は要約と意見（生き方の主題）。「他の人を基準にするのではなく、自分自身を基準とするような生き方を。」

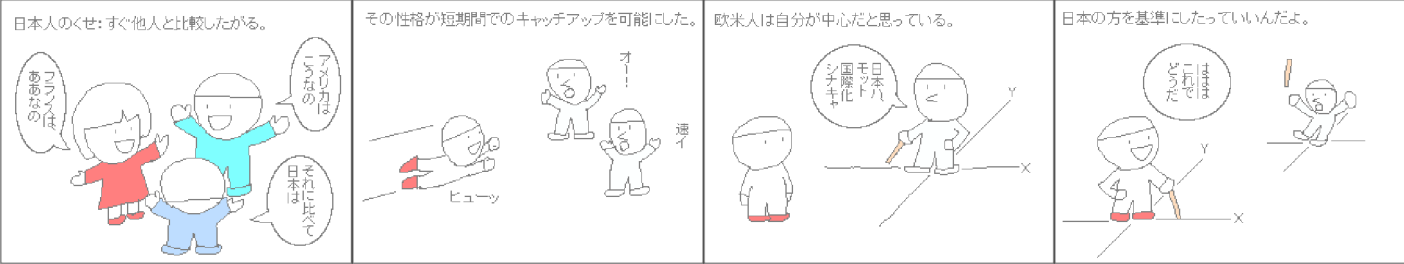
第二段落は、その方法1と体験事例。「そのためには第一に、自分のことは自分で決めることである（方法）。先日、大勢でレストランに行った。一人がカレーライスを注文すると、みんなが『私も』『僕も』と同じものを注文したが、僕だけはみんなと違ってラーメンを注文した。（^_^）」

第三段落は、方法2と伝記事例。「第二の方法としては、歴史上の偉人から、自分自身を基準とする生き方を学ぶことだ。伝記によると、聖徳太子は、『日いづるところの天子、書を日没するところの天子にいたす、つつがなきや云々』という手紙を隋の皇帝に送った。当時の大国である中国に対しても、しっかりと自分の国の存在を主張したのである。」

第四段落は反対理解と名言。「確かに、周囲との比較で自分を見るということは大切である。しかし、……。『自分が考えるとおりに生きなければならない。そうでないと、ついには自分が生きたとおりに考えるようになってしまう』のである。」

絵のヒント 12.2週

（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）



★考えてみると、私の家では（感）

長文 12.3週 ru

1 考えてみると、私の家では犬も猫も飼った覚えがない。あとになって、大森に引越してから、家の縁の下に野良犬が仔を生んで、鳴き声に気がついた私が、ある日、縁の下深くまでもぐって仔犬をつかまえ、**2** 飼ってくれと、母親にせがんだことはあつたけれど、七、八匹もいた仔犬たちは、母犬がどこかにつれていってしまうのか、それとも盗まれるのか、つぎつぎと姿を消してしまった。**3** 最後の一匹が見えなくなった日は、私は本当に悲しくて、学校から戻ったあと、日がくれるまで近所一帯を一生懸命に探して歩き、疲労と気落ちでしょんぼりして帰宅したあと、夕食もとる気になれず、床に入ってから**4** 長いこと寝つかれなかったのを覚えている。**4** 奇妙なことに、まだ仔犬に対して特別の親近感を抱くようになるだけの時間もたっていないのに、子供の私には、母親は別だとしても、それまで大切だったはずのほかの多くのものよりもはるかに重大な意味をもつ存在になってしまっていたのだ。**5** どうして、こういうことが、人間の子どもには、可能なのだろうか。私たちのなかの何が、こんな種類の愛情を成立させる力をもっているのだろうか。**6** とにかく、人間の子供にとつての犬や猫といった小動物たちは、母親のつぎにくる、「愛情の学校」ではないだろうか。私たちは、その学校で、人間同士では味わえない、ある種の純粋な愛の相を経験するのではなからうか。

7 姿を消した仔犬のことで、私がいつまでもあんまり悲しがっているものだから、母親が、ある日東京に出かけたついでに、ひとつがいのチャボを買って来てくれた。**8** その土産の小さな金物の籠のままで、はせますぎるので、大工さんと呼んできて、庭の片隅に小屋をつくつてもらった。チャボは犬とちがって、愛撫したり、いっしょにそのへんを駆けまわったりできないので、勝手が少しちがったけれど、それでも私はそれなりに可愛いと思った。**9** こまめに、餌をやったり、小屋を掃除したり、いろいろ世話をした。世話をするのがうれしかった。数日して、巢の中に小さな白い卵のおいてあるのを見た時は、これが本当に私たちの鳥の生んだ卵だとはなかなか信じられなかった。**0** しかし、卵はその翌日も、巢の中にちよこん

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

とおさまつていた。昨日の分は今朝学校にいく前、朝食といつしよに食べてしまったのだから、これは新しい卵に相違なかつた。こんなに一生懸命生むのなら、食べてしまったら氣の毒だな、と思った。とらずにおいといたら、いまに、卵がかえつて、ひよつ子が生れて来るのではないか。鶏は一年中卵を抱くわけではないと思うけれど、では少しとらずにおいて様子を見ることにしようか、と母はいった。

その夜私たちが寝ていると、庭で何か物音がして、目がさめた。何かが走ってゆくような音が聞こえた。そのまま、しばらく、きき耳をたてていたが、あたりはただひっそりしていて、何にもきこえない。翌朝起きて、雨戸をくり、庭の方をみると、白い羽根が散乱していた。「おかあさん」と叫んだまま、鳥小屋の方にかけて出した。前にはられた金網が破れ、小屋の中はからっぽだった。あとから来た母と二人で、羽根のちらばった方を探しているうち、小笹の茂ったかげに、ひんけい牝鶏が横になっていた。咽喉をかまれたと見えて、そこから胸にかけて、白い毛が真赤に染っていた。それでも両手に抱きとてみると、気のせいかな、眼蓋が動くみたいで、そこから、眼の白いところが少し見える。「まだ生きてるんじゃないか」と、片手で首を持ち上げてみたが表情は全く変らない。彼女の姿は、生きていた時よりむしろ美しいくらいだった。

昨日まであんなに元気だったのにと、思つて、手を放したら、首がぐくつとたれた。その瞬間、私は、自分が、今、じかに「死」というものにふれたのだと感じた。この経験は、いうまでもなく、私には全くはじめてのものであった。私はそれまで、そんな経験があらうと予測したこともなかった。

生命とは、何かのことで一瞬にして消えていってしまふものであること、それが消滅すると共に、まるでばねきで手もとのカードをひきぬかれでもしたみたいに、私の手もとに残ったものの、これこそ「死」以外の何ものでもないという感じ。そこには恐ろしくて、しかも私の心をいつまでもつかまえて離さない力があつた。

これ以上大事なものはないと信じて大切にしていたものでさえ

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

一瞬にして離れ去り、二度と戻ってくることはない。人生では、そういうことが起こる。そういう一瞬があるのである。それは、あたかも、私たちの油断の時を狙いすませていたかのように突然やつてくる。アツと思つた時は、もうどうしようもない。失われるのは生命に限らない。一つの幸せ、一つの平穩、一つの恋であることもある。ついにさつきまで、人生は私たちに、あんなに快く、優しい眼差しをおくつていたのに、一瞬にして、全く別の相貌が現われる。

子供の日から何十年かの後、私はブリュッセルの美術館で、この時私の感じたものをはっきり思い出さずにおかない一枚の絵に会つた。十六世紀の無名のオランダ派の描いた少女の半身像で、彼女は両手に死んだ小鳥を堅く握りしめたまま、明らかにどこの誰に向けたらいいのかわからないまま、困惑と驚愕と憤怒でかつと見開いた両眼で、こちらを見すえていた。

(吉田秀和の文章による)



99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67



課題 ルピナス 12.3週

★考えてみると、私の家では（感）

今週は感想文の課題です。

解説 12.3週

内容：少年時代、飼っていたチャボの死を通して、人生には大切なものが一瞬にして失われるときがあるという経験をした。何十年かの後、ブリュッセルの美術館で、この時私の感じたものをはっきり思い出さずにおかない一枚の絵に会った。

解説：人生の相貌の一瞬の変転という経験は、みなさんもしたことがあるでしょう。だからこそ、今のこの一瞬を悔いなく生きるという姿勢が必要なかもしれません。「葉隠」という本には、著者山本常朝の独特の人生観が書かれています。山本常朝は、武士の心構えとして、毎朝毎晩自分が死ぬときのことを考えることが大切だと言います。しかも、それをいちばん苦痛の多い死に方として日々考えていくべきだと述べています。

私たちはともすれば、死や苦痛から目をそらそうとしがちですが、死や苦痛を直視することによって充実した生き方ができるのかもしれない。

解説のつづき 12.3週

第一段落は要約。続けて生き方の主題の意見。「人生は一瞬にして変転することがある。しかし、どのような運命も明るく受け入れられるように生きていきたい。」又は「いつどんなことがあっても悔いのないように、今を精一杯生きたい。」

第二段落は、方法1と体験実例。「そのためには、第一に、今の喜びをしっかりと満喫することだ。私も、料理でおいしいものとまずいものが一緒に出たときには、いつ死んでもいいように、まずおいしいものから食べることにしている。」

第三段落は、方法2と伝記実例。「また、学校教育でも、世の中には理不尽な運命があるということを教えることだ。そうでないと、不幸に遭遇したときになぜ自分だけがこんな目にと、社会をうらんでしまうからだ。伝記によると、秀吉は、本能寺で信長が討たれたと聞いたときに、突然の運命に嘆くのではなく、すぐに新しい作戦を考えた。このように、運命に対して前向きになることが必要だ。」

第四段落は、反対理解と名言の引用。「確かに、世の中には、不幸な運命もある。また、その不幸をじっくり味わうことも大切だ。なぜなら、その不幸をしみじみ感じることによって、弱い人に対する共感の気持ちも持てるようになるからだ。しかし、私たちは、いつまでも運命を嘆いていずに、あかるく生きていく必要がある。『今日という日は、明日という日の二日分ある』という言葉がある。明日や昨日を思いわずらうのではなく、今日を精一杯に生きるべきだ。」

解説のつづき 12.3週

「悲しい運命にも立ち向かい、前向きに生きた」偉人の例は、枚挙に暇がありません。聴力の低下にもめげなかった作曲家ベートーベン、聴覚、視覚、言葉の障害の三重苦に負けなかったヘレン・ケラー、手の障害を乗り越えた野口英世、等々。彼らは、悲しい運命を伴った人生を、並々ならぬ努力で切りひらいてきました。みなさんの知っている偉人の話を伝記実例として入れてみましょう。

絵のヒント 12.3週（低学年の場合は、ヒントではなく、ただのカットとして見てください）



長文 12.4週 ru

われわれ普通の凡俗にとっては、情報の節食、ないしコントロールということはむずかしい。実際「遠くへ行きたい」と言うので、山に登ったりする若者たちも、テントの中で、必ずラジオを聞いている。もちろん、山の天気は変わりやすく、したがって、天気予報を聞くためにラジオは必需品だ、と若者たちは抗弁する。しかし、これらのテントに近づいて耳を傾ければ、かれらは例外なくディスク・ジョッキーなどを聞いているのである。いや、天気予報だって、昔の登山家は、自分の過去の経験によつて見通しを立てた。今日の大衆登山は、その意味では情報登山とも呼ばれるのがふさわしい。

どうしても情報の洪水の中で生きるより仕方がないのであるとするならば、そこでわれわれには、いったい何ができるであろうか。

一つの可能性は「体験」の世界を大切に直視してみることである。人間は、みずからの経験の中に、他人の経験をとり入れることができる。われわれの「想像力」は、他人のどんな経験にも乗り移り、どこにでも自由に動いてゆくことができるのだ。われわれのシンボルの経験の世界は、いくらでも、広がってゆく。しかし、シンボルの経験が広がる、ということは、しばしば人間の現実と直接的なかわりをおろそかにさせる。もちろん、「現実」というものの自体も、シンボルのであり、人間の精神機能を抜きにして考えることはできない。しかし、たとえば、「花」という言葉を使って、花について考えたり語ったりすることよりも、われわれが「花」という言葉によって指し示している実在の植物を自分の手に取って、そのにおいをかいでみる、という行為のほうが、情報行動として、よりシンボル性が少なく、より実在の世界に近づいている、と言えるだろう。そうした、実在の世界との距離をせばめることを、われわれはときどき試みる必要があるのではないか。(中略)

われわれの情報活動のなかでは、しばしばイメージ、あるいは観念を尺度にして現実を評価する、という逆転した思考方法が定着してしまっている。「体験」という名の情報に、より大きな価値を与える習慣をつけなければ、この逆転を正常な姿に引き戻すことはできない。たとえば、旅行案内に書かれていることと、自分がその現地で体験したこととの間に食い違いがあるとすれば、その場合、まちがっているのは、明らかに情報のほうなのである。自分の体験が

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

尺度になって、その尺度によって情報が評価されて、はじめて、人間と環境とのかわりは、正しい姿になるのだ。それを逆転させているかぎり、われわれの情報活動は根なし草のごときものであり続けるだろう。

実際、こんなふうな情報圧力が激しくなってくると、われわれは情報のとりこになり、押し流されることになりかねない。自分の持っている意見が、新聞などに載っている社会の大多数の意見と食い違っているときには、なんとなく不安になって、自分の意見を捨てたくなったりもする。周りがみんな、そうだ、そうだ、と叫んでいるときに、ひとりだけ、ちがう、と発言することは、たいへんな勇気のいる作業なのである。

それを押し返すためには、それぞれの人間がなにがしかの「体験」を蓄積することこそが大事なのである。自分は、この目で確かに見た、この耳で確かに聞いた、と確信をもつて言えることがらが、もつとたくさんあつてよい。もちろん、体験というものは、かなり主観的なものであつて、偏りもあるだろう。しかし、それぞれの人間の個性というのは、結局のところ、そうした偏りのことなのである。偏りを恐れて、个性的で確かな人生など、構築しうるはずがないではないか。

(加藤秀俊「情報行動」)

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

課題 ルピナス 12.4週 ★清書（せいしょ）
4週目は清書です。

名言集

印刷版 => ウェブ版

1	飽きるということも、一つの能力のあらわれである。
2	悪書を読まないことは、良書を読むための最初の条件である。
3	朝の来ない夜はない。
4	暗殺者は世界の歴史をかえなかった。
5	家とは、外から見るためのものではなく、中で住むためのものである。
6	家の批評ができるのは、建築家ではなくそこに住む人である。
7	いかに飽きずに続けるかではなく、飽きることと続けることとをいかに両立させるかということが大切だ。
8	英雄が歴史を作るのではなく、歴史が英雄を作る。
9	多すぎる休息は、少なすぎる休息と同じように疲れさせる。
10	限られた人生で、大事なことは、「何をするか」ではなく「何をしないか」である。
11	過去と他人は変えられないが自分と未来は変えられる。
12	カメラマンは、レンズのほこりを払うまえに目のほこりを払わねばならない。
13	今日という日は、明日という日の二日分ある。
14	記録は破られるためにある。
15	議会に期待しない国民は、議会を非難する資格を持たない。
16	経験は、最良の教師である。
17	行動するためには、多くのことに無知でなければならない。
18	幸福な家庭は、みな似ているが、不幸な家庭は、いずれもそれぞれに不幸である。（トルストイ）
19	子供は大人を小さくしたものではなく、それ独自の価値を持っている。
20	才能とは自分自身を信ずる能力である。
21	寒さに抵抗するいちばんよい方法は、寒さに満足することである。
22	寒さにふるえた者ほど、太陽の暖かさを感じる。
23	雑草とは、まだ、その美点が発見されていない植物のことである。
24	勝負に勝つためには、苦手をなくすことよりも、得意技を持つことである。
25	時間を作る第一の方法は、急ぐことではなく、どこに時間を使うか考えることである。
26	自国に対する賞賛が他国に対する軽蔑によって支えられているのであってはならない。
27	辞書のような人間になることではなく辞書をうまく使えるような人間になることが勉強の目的である。
28	自分の心のうちに持っていないものは何一つ自分の財産ではない。
29	上手なプレーをしたときよりも、悪いプレーをしたときの態度が大切である。
30	人生に意味はない。あるのは欲望だ。欲望があるから、バラはバラらしく花を咲かせている。
31	すべてに効くという薬は、何にも、たいして効かない。
32	鋭い刃物ほど安全である。
33	精読とは、ゆっくり読むことではなく、同じものを繰り返して読むことである。
34	戦争では、どちらの側が勝利を宣言しようが、勝者など存在しない。全員敗者である。
35	存在するものには、良いとか悪いとかを言う前に、すべてそれなりの理由がある。
36	大切なのは、健康らしい外見ではなく、健康自身である。
37	正しいものは、悩みも多い。
38	他人から尊重されるためには、まず自分で自分を尊重できなければならない。
39	短所をなくすいちばんよい方法は、今ある長所を伸ばすことである。
40	脱皮できない蛇は滅びる（ニーチェ）
41	知識がはしごを作ったのではなく、二階に上がりたいという熱意がはしごを作ったのだ。
42	強くなければ寛大ではありえない。
43	哲学者たちは、世界をさまざまに解釈してきた。しかし、大切なのは、解釈することではなく、変革することである。

44	できあがった規則をなんとか守ろうとすることよりも、実態に合わせて規則を変えていくことが、真に規則を生かす道である。
45	出口のないトンネルはない。
46	デモクラシーとは、奴隷にも主人にもなりたくないということである。（リンカーン）
47	トランプが活着ているのは、それが実際のプレーに使われているときである。
48	読書とは、自分の頭で考えることではなく、他人の頭で考えることである。（ショーペンハウエル）
49	読書は人間を豊かにし、討議は人間を役立つようにし、文章を書くことは人間を正確にする。
50	何事もしない者だけが失敗もしない。
51	なまけ者であることを批判するよりも、人間とはもともとそうしたものだということから出発するべきだ。
52	人間というものは、結果から事のよしあしを判断する。
53	人間は強くなるほど素直になれる。
54	人間は、求めているかぎり迷うものだ。
55	始めることも大切だが、やり遂げることの方が、もっと大切である。
56	花はだれが見ていなくても咲いている。
57	人が旅行するのは、到着するためではなく旅行するためである。
58	人はその制服のとおり人間になる。（ナポレオン）
59	人は食べるために生きるのではなく、生きるために食べるのである。（ソクラテス）
60	一人の敵も作らない者は、一人の友も持たない。
61	不幸な人は、どのような考えの中にも不幸の理由を見出す。
62	毎朝、歯をみがくのに、一週間分まとめて一挙にという人はいない。
63	短いスピーチが長いスピーチよりも難しいのは、言い直しがきかないからである。
64	道は近くても、行かなければ到達しない。
65	未来には、ひとりでにできる未来と、自分で作る未来との二つがある。
66	未来を予測する最も確実な方法は、未来を創造することである。
67	民主主義は、教科書には書かれていない。
68	名医ということばがあるかぎり、医学は科学ではない。
69	持ち物を気にするのは、実力に自信がない証拠である。
70	最も速い速読の秘訣は、不要なものは、読まないということである。
71	もともと地上に、道はない。歩く人が多くなれば、それが道になる。（魯迅）
72	問題とは、そこにあるものではなく、自分が作るものである。
73	やさしさが、性格の弱さであってはならない。
74	夢があるから行動するのではなく、行動するから夢が生まれる。
75	夜明け前が最も暗い。
76	良い馬は、長い坂を欲する。
77	良い友人を得たければ、まず自分が良い友人でなければならない。
78	弱い人は、率直（そっちょく）ではありえない。
79	ライオンは、一匹のウサギを倒すためにも、全力を尽くす。
80	理想に到達するための手段はまた、理想への到達を阻（はば）む障害でもある。
81	ロバが旅に出たところで、馬になって帰ってくるわけではない。
82	私たちの幸福が、ほかの人びとの不幸に支えられているのであってはならない。
83	私たちの人生は、私たちが費やしただけの価値がある。
84	悪いことそのものがあるのではない。時と場合によって悪いことがあるのである。



▼課題フォルダ

(1) 課題集〇〇の山

★印がその週の課題です。★印が二つある場合はどちらを選んでもかまいません。

課題集は、授業のはじまる前までに見ておき、何を書くか決めておきましょう。

小学1、2年生は自由な題名が中心です。小学3、4年生は、決められた題名が中心です。感想文の課題の場合は、その週の長文を読んでから先生の説明を聞くようにしましょう。小学5、6年生の課題は、難しいものが多いので、よく読んで似た話を見つけておきましょう。

言葉の森のホームページにある「生徒ページ」のリンクから、「鳥の村」に入れます。「鳥の村」の「資料室」には、学年別課題の解説などが載っているので参考にしてください。

<https://www.mori7.com/tori/>

(2) 項目表〇〇の苗

課題集の次のページに項目表があります。

項目表の★印の項目ができるように作文を書いていきましょう。★印の項目が十分にできる人は、◎印の項目もできるようにしていきましょう。

項目ができたところに、項目の説明又は項目のマークを書きましょう。清書のときは、項目の説明やマークは書きません。

(構成  題材  表現  主題 )

(項目マークの絵は、枝、葉、花、実がわかるように自由にかいてかまいません。)

(3) 課題フォルダの中身

課題フォルダには、週ごとの課題と解説と長文が載っています。その週の課題を見て、書くことを準備しておいてください。

- ・課題フォルダの長文は、毎日の音読に使ってください。感想文の課題のときの、もともになる長文も兼ねています。



●言葉の森 233-0015 横浜市港南区日限山4-4-9 電話 045-353-9061